

〈看護学科〉

「看護援助」「看護診断」「看護歴史」などそれぞれが研究テーマをもち継続的に研究を行っている。

基礎看護学

教授：芳賀佐和子 基礎看護学
准教授：平尾真智子 基礎看護学
講師：菊池麻由美 基礎看護学
講師：羽入千悦子 基礎看護学

教育・研究概要

I. 教育方法・評価に関する研究

1. フィジカルアセスメントの教授法

全身の系統的アセスメントの講義や演習の教授法に関する研究を進展させ、臨床実習でのフィジカルアセスメント教育方法について、研究を継続している。

II. 看護援助に関する研究

1. 筋ジストロフィー病棟に関する研究

筋ジストロフィー病棟の歴史の変遷や看護師の臨床状況に対する構えについての研究を行った。

2. ストーマ患者への援助に関する研究

ストーマ増設患者のストーマ長期管理に関して、皮膚色素沈着を評価の視点として継続して研究している。

3. 排泄への援助に関する研究

床上排泄時の排泄姿勢を明らかにするために、ベッド上での腹圧のかかり方について腹部表面筋電図を用いて研究を行った。

III. 看護診断に関する研究

NANDA 看護診断への新しい診断名の提案を目指し、「腹部膨満感」という患者現象の同定を継続して研究している。

IV. 看護歴史に関する研究

ミス・リードについて、明治における日本の看護開拓指導者という点について明らかにした。

〔点検・評価〕

基礎看護学領域としては、「看護基礎教育課程でのフィジカルアセスメント能力の育成」、「症状マネジメント教育のための検討」、「看護技術」について継続的に研究を行っている。

研究業績

I. 原著論文

1) Hirao M, Haga S, Kohiyama R (Tokyo Woman's Christian University). M.E. Reade: The pioneering educator of nurses in Meiji Japan. *Jikeikai Med J* 2010; 57(4): 113-9.

II. 総説

1) 菊池麻由美. 筋ジストロフィー病棟の歴史の変遷－筋ジストロフィー病棟での療養をめぐる研究の方向を探る. *慈恵医大誌* 2010; 125(5): 143-52.

III. 学会発表

1) 羽入千悦子, 菊池麻由美, 青木紀子, 芳賀佐和子. 臨地実習における学生のフィジカルアセスメント活用状況 2年生と4年生の比較. 日本看護技術学会第9回学術集会. 名古屋, 10月.

2) 芳賀佐和子, 平尾真智子, 蝦名總子. 明治24年濃尾地震における東京慈恵医院の救護・看護活動. 第111回日本医史学会総会・学術大会. 水戸, 6月.

3) 菊池麻由美. 筋ジストロフィー病棟に勤める看護師の臨床状況に対する構え. 第30回日本看護科学学会学術集会. 札幌, 12月. [第30回日本看護科学学会学術集会講演集]

4) 中藤三千代(東京臨海病院), 下舞紀美代¹⁾, 山田紋子²⁾, 林みよ子²⁾, 古川秀敏¹⁾(¹国際医療福祉大学), 菊池麻由美, 杉田理恵(東京衛生学園専門学校), 小泉純子(日本赤十字看護大学大学院), 棚橋康之²⁾, 津田泰伸²⁾, 黒田裕子²⁾(²北里大学). 看護援助を必要とする「腹部膨満感」という患者現象の明確化－消化器疾患患者に焦点をあてて－. 第17回日本看護診断学会学術大会. 神戸, 6月. [看護診断 2010; 15(2): 110-1]

5) 羽入千悦子, 江川安紀子, 吉本大樹, 諏訪勝仁, 中島紳太郎, 三浦英一郎, 穴澤貞夫, 大村裕子. 長期管理におけるストーマ周囲皮膚の状況 色素沈着に焦点をあてて. 第28回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会. 福岡, 2月.

6) 青木紀子. 便器を挿入し上体挙上角度を変化させた時の腹圧のかかり方の検証. 日本看護技術学会第9回学術集会. 名古屋, 10月.

成人看護学

教授：藤野 彰子	がん看護学，緩和ケア
教授：藤村 龍子	クリティカルケア，周手術期看護
教授：高島 尚美	周手術期看護学，クリティカルケア
講師：渡邊 知映	がん看護学，化学療法とQOL

教育・研究概要

看護系の大学教育においては，臨地実習は重要な学修方法であり，患者を受け持ちながら看護の体験をするため，学生は貴重な経験をすることができる。成人看護領域の実習は6単位（270時間）と実習時間数も多い。

そこで臨地実習の教育的意義を明らかにするために，すでに臨床で働いている大卒看護師について，在学中の成人看護領域での臨地実習で得た重要な学びや経験を調査し，今後の教育活動の基礎資料としたいと考えた。方法として，看護系大学を卒業し，臨床経験3年未満の看護師に対し面接調査を実施し，質的帰納的分析をした。その結果，実習中の看護過程の展開や患者との関わり方などの看護実践の経験の重要性が明らかになった。また臨床現場における看護師を初めとする医療関係者や実習グループ内での人間関係調整能力，自己の健康管理などの要素もあることがわかった。今後はこれらをさらに詳しく分析し，教育内容に反映したいと考えている。

藤野は緩和ケア病棟に勤務する看護師のインタビューを通し，ケアリングタッチの重要性を明らかにしようとしているが，本年度はすべてのデータの分析が終了し，論文を作成している過程である。

高島は，在院日数が短縮した状況下における消化器外科系病棟の看護管理者への全国調査結果を分析し現状を明らかにするとともに，外来看護の現状や胃がんで手術を受けた患者のQOLを分析した。クリニカルパスの活用やセルフケア支援の工夫が実施されている一方で多忙さを極めており，効果的なセルフケア支援等で看護の質を高める必要性を明らかにした。

〔点検・評価〕

成人看護学実習に求められるリスクマネジメント教育のあり方の検討から，看護技術の内容を検討し，点滴の管理，救急蘇生，心電図等を学内演習に

取り入れ，また，手術室，ICU，血液浄化部等の臨地実習をも導入することで，学生の看護技術の見学や体験が増加した。これは学生にとって意義があり本年度も継続している。看護学実習において，学生に看護技術をできるだけ多く体験させるよう，教員は努力し，徐々に成果は上がっている。

成人急性期分野の教授が2名となり，この分野の教育と研究が充実した。

研究業績

I. 原著論文

- 1) 高島尚美，村田洋章，渡邊知映．在院日数短縮に伴う消化器外科系外来における周手術期看護の現状と課題．慈恵医大誌 2010；125(6)：231-8.
- 2) 高島尚美，大江真琴，五木田和枝，渡部節子．成人看護学臨地実習における看護学生のストレスの縦断的变化－心理的ストレス指標と生理的ストレス指標から－．日看研会誌 2010；33(4)：115-21.
- 3) 村田洋章，井上智子．急性呼吸不全患者への非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）継続のための看護師の臨床判断に関する研究．日クリティカルケア看会誌 2011；7(1)：36-44.

III. 学会発表

- 1) 村田洋章，井上智子．急性呼吸不全患者への非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）継続のための看護師の臨床判断に関する研究．第6回日本クリティカルケア看護学会学術集会．札幌，7月．
- 2) 野中麻衣子，渡邊知映，村田洋章，高島尚美，中田浩二，坪井一人，矢野健太郎，佐々木敏行，三森教雄，柏木秀幸，矢永勝彦．胃切除後早期の食事適応障害により残胃拡張をきたした一例．第40回胃外科・術後障害研究会．東京，11月．
- 3) 村田洋章，渡邊知映，野中麻衣子，高島尚美．胃切除術を受けた患者の術前から退院までの身体活動状況に関する事例研究．第25回日本がん看護学会学術集会．神戸，2月．
- 4) 野中麻衣子，渡邊知映，村田洋章，山田美穂，五木田和枝，平井和恵，渡部節子，高島尚美．胃がん術後2ヶ月においても身体的健康度が回復しない患者の特徴．第25回日本がん看護学会学術集会．神戸，2月．[日がん看会誌]

IV. 著書

- 1) 今村洋二（関西医大），四津良平¹⁾，志水秀行¹⁾（¹慶応大），松本賢治，北野正剛²⁾，太田正之²⁾（²大分大），高島尚美．第2章：心臓および脈管系 II．心臓・脈管系疾患患者の看護．北島政樹，江川幸二編．

系統看護学講座 別巻：臨床外科看護各論 第8版
東京：医学書院，2011. p.142-71.

老 年 看 護 学

教 授：櫻井美代子 老年看護学
准教授：伊達久美子 老年看護学

教育・研究概要

老年看護学の教育は、21年度改正カリキュラムで実習単位数が増えたため、実習内容と方法についての検討を行った。特に認知症高齢者の理解とその対応方法を学ぶために、老人保健施設での実習期間を増やすこと、介護予防に向けた健康教育の実際を体験するために、居宅介護支援事業の実習を取り入れることを提案し、実習施設との交渉を進めた。

研究については、昨年度からの研究を継続している。櫻井は、認知症高齢者の家族へのインタビュー内容を分析しているが、娘と息子では親に対する反応に違いがあることから、さらに新たなフィールドを開発し息子へのインタビューを継続している。伊達は、昨年度に引き続き高齢者の生活習慣との関連および健康行動変容に関する研究を継続している。本年度は、「家庭用健康ゲーム・ソフト」を高齢者が利用する際の基準について検討した。

「点検・評価」

学生は、成人看護学（慢性期）実習でも高齢者を受持っているため、リハビリ病棟で行う老年看護学実習の特徴を明確に打ち出す必要があった。しかし本年度は、実習病棟に高齢患者が非常に少ない状況であり、学生の実習への関心度や満足度が低い結果であったことから、次年度以降は実習病棟の変更を検討する必要がある。

研究活動はこれまでの研究成果を出すことと、次年度に向けて老年看護学の教育に関する研究に取り組みたい。

研 究 業 績

Ⅱ. 総 説

- 1) 櫻井美代子. 老年看護学の理念. 看と情報 2011; 18: 15-20.

精神看護学

教授：川野 雅資 精神看護学
講師：石川 純子 精神看護学

教育・研究概要

精神看護学領域では、教育活動として、学生が講義と実習が連動するように工夫した。特に、3年次のメンタルヘルスケアⅡ-2では、精神看護学の方法論としての内容とし、ロールプレイングを活用して、実際の状況に近い内容で、精神看護に必要な技術を教授し、かつ学生には演習で実技を教授した。更に、前年度から用いている実習病院での実際に近いVTRを活用して、実習のイメージ化と精神障害者への対応の具体的方法を学べる工夫をした。2年次の精神看護対象論では、かがやき会から体験者2名を大学に招いて、実際の病む人の体験を聞き、かつ、輪になって学生と話し合う機会を設けた。学生からの評価は良好であった。実習では、1名の患者を受け持ち、看護過程を展開する内容に、スーパービジョンを取り入れ、学生の理解を促し、重点的な指導を行うこととした。4年次の総合実習では新たに東京武蔵野病院を実習施設として依頼し、4名が実習した。3年次の看護継続ゼミⅢでは、5名の学生が「児童・思春期精神医療」について学習し、都立大塚病院、横浜カメリアホスピタル、国立精神神経医療センター国府台病院で学んだ。

研究活動は、継続して、東京都下板橋区・豊島区・練馬区の児童青年精神医療の資源について調査し、併せて小児科を標ぼうしているクリニックに調査を行った。精神看護における基礎教育と専門教育で求めるコミュニケーション技術に関する研究も継続している。特に、ケアリングの視点で分析することを行った。新たに、日本とタイで農村部に暮らす退院した精神障害者の医療と生活についてインタビュー調査を行った。そのために、共同研究者であるマハーサーラカーン大学があるタイを訪問した。2月にはイギリスの看護教育、地域精神医療の実際を学ぶために、キングス大学フローレンス・ナイチンゲール看護学部、シティ大学ロンドン、スウォンジー大学を訪問し、多くの地域精神医療機関を訪問した。今後の教育・研究活動に役立てていきたい。中国の看護師の「患者中心の看護」について、面接調査を行い、中国の看護師らと共同研究を行った。

「点検・評価」

教育では、空席だった講師のポストに石川講師が7月に着任し、人材が整った。教育活動・内容の見直しに継続的に取り組み、現時点でのカリキュラム構造がほぼ整った。来年度にはある程度完成した内容で教育できるのは、良いことである。また、今後の事態を鑑み、実習病院・病棟の開拓に取り組み、東京慈恵会医科大学病院本院11E病棟での実習の可否について下準備を行ったことは評価できる。今後、実習機関として実現できるように調整を進めていく。総合実習では新たに東京武蔵野病院での実習を開拓し、学生にスーパー救急病棟での実習ができるように整えたのは、先方の協力があったことであるが、良かったと考えている。昨年度作成したVTR教材と教科書がリンクし、実践的な教育が出来たと考えている。更に、今後、精査していきたい。

研究活動は、一貫して精神看護学領域の研究を行い、継続的にそして新規に行っていることは評価ができる。又、国際的な共同研究、国内でも多くの研究者と共同していることは望ましいことである。ただし、学外の研究費の申請を行っていないこと、学術論文として発表していないことは不足している点である。今後は、学会で発表した内容を学術論文として発表していくことが必要である。

研究業績

Ⅱ. 総説

- 1) 川野雅資. 【地域精神科医療に取り組む】地域精神保健のための教育と訓練. 精神 2010; 17(3): 291-4.

Ⅲ. 学会発表

- 1) 揚野祐紀子, 中田涼子, 片山典子, 川野雅資, 櫻井尚子, 塩月玲菜, 朝倉真奈美. タイ国農村部の地域連携精神看護学-タイにおける精神保健福祉と農村部の現状報告-. 第3回日本地域連携精神看護学研究会. 東京, 12月.
- 2) 寺田祐治, 一ノ山隆司, 舟崎起代子, 上野栄一, 川野雅資. 統合失調症患者の退院準備期におけるセルフマネジメントの視点からの援助. 第3回日本地域連携精神看護学研究会. 東京, 12月.
- 3) 明神一浩, 前川哲弥, 森下憂一, 一ノ山隆司, 上野栄一, 川野雅資. 長期入院患者の退院支援に関する地域連携看護の課題. 第3回日本地域連携精神看護学研究会. 東京, 12月.
- 4) 川野雅資, 石川純子, 片山典子. 精神看護学におけるロールプレイングを用いたコミュニケーションスキルの授業展開. 第30回日本看護科学学会学術集会.

札幌, 12月. [日看科学会講集 2010; 30回: 189]

- 5) 石川純子, 川野雅資. 精神科看護師のケアリング実践に関する研究 第2報. 第30回日本看護科学学会学術集会. 札幌, 12月. [日看科学会講集 2010; 30回: 549]
- 6) 安藤満代, 長尾秀美, 川野雅資. 就労支援としての職業能力開発校での訓練を受けた精神障がい者の心理面と必要とされる支援. 第30回日本看護科学学会学術集会. 札幌, 12月. [日看科学会講集 2010; 30回: 280]
- 7) 一ノ山隆司, 舟崎起代子, 村上 満, 上野栄一, 川野雅資. 就労継続支援事業所実習後の学生が捉えた地域支援活動の視点. 第36回日本看護研究学会学術集会. 岡山, 8月. [日看研会誌 2010; 33(3): 319]
- 8) 明神一浩, 一ノ山隆司, 村上 満, 舟崎起代子, 上野栄一, 川野雅資. 精神臨床看護師が捉える急性期看護における患者の暴力行為の予見要因. 第36回日本看護研究学会学術集会. 岡山, 8月. [日看研会誌 2010; 33(3): 146]
- 9) 石川純子. 慢性病患者のケアリングに関する研究の動向と今後の課題. 第4回日本慢性看護学会学術集会. 札幌, 6月. [日慢性看会誌 2010; 4(1): A101]
- 10) 小澤芳子, 岡本佐智子, 後藤桂子, 田村佳士枝, 坂本めぐみ, 石川純子. 看護実践能力を高めるSP(模擬患者)参加型演習の検討-点滴静脈注射の看護技術にOSCEを導入して-. 第20回日本看護学教育学会学術集会. 大阪, 8月. [日看教会誌 2010; 20(学術集会講演集): 250]

IV. 著 書

- 1) 川野雅資. 第9章: 治療評価 ケアとアウトカム. 精神科臨床評価検査法マニュアル. 改訂版. (臨床精神医学第39巻(2010年)増刊号). 東京: アークメディア, 2010. p.784-95.

V. その他

- 1) 川野雅資. 会長講演. 第3回日本地域連携精神看護学研究会. 東京, 12月.

小 児 看 護 学

教授: 濱中 喜代 小児看護学

准教授: 長 佳代 小児看護学

教育・研究概要

I. 小児看護の現場でいきいきと働き続けるための卒前・卒後に行う教育支援プログラムの開発とその検証

これまでの卒前・卒後に行う教育支援プログラムを開発とその検証の研究の成果をまとめ, 学会発表し, 関連雑誌に掲載した。

II. 入院している子どもの教育支援のための教育と医療の連携・協働-病棟師長・主任看護師への全国調査による検証-

小児がんの子どもをはじめとして長期に入院している子どもの教育支援として医療と教育の連携は特に重要であるにもかかわらず, その実態について医療者の側から検証している研究は極めて稀であるため, 今年度, 病棟師長・主任を対象に医療と教育の連携について全国調査に着手した。

III. 子どものヘルスプロモーション促進への基礎教育における外来看護実習と外来看護の構築に関する研究

4年間の活動および調査結果を報告書にまとめた。

「点検・評価」

Iの研究については成果を公表でき意義があった。IIにおいては, 全国レベルのデータ収集を行っており, 今後分析して成果を発表し実践にいかしていきたい。IIIの研究も報告書を提出し, 完成できた。今後の研究に繋げていきたい。

研 究 業 績

I. 原著論文

- 1) 荒川まりえ. 看護師が抱く子どもの死に対する思いターミナルケアの経験から. 東京女医大看会誌 2010; 5(1): 11-9.

II. 総 説

- 1) 濱中喜代, 日沼千尋(東京女子医科大学), 大木伸子(前・東邦大学), 中村由美子(青森県立保健大学), 大矢智子(前・千葉県こども病院), 児玉千代子(東

海大学)。【小児看護における新人教育 プリセプターシップなど新人看護師への支援】看護教員が行う新人看護師への教育的支援 小児看護の現場で働き続けるための教育支援プログラム 開発と実際。小児看護 2010；33(3)：289-97。

- 2) 日沼千尋 (東京女子医科大学), 濱中喜代, 大木伸子 (前・東邦大学), 中村由美子 (青森県立保健大学), 大矢智子 (前・千葉県こども病院), 児玉千代子 (東海大学)。【小児看護における新人教育 プリセプターシップなど新人看護師への支援】看護教員が行う新人看護師への教育的支援 小児看護の現場で働き続けるための教育支援プログラム 効果と課題。小児看護 2010；33(3)：298-303。

III. 学会発表

- 1) 濱中喜代, 難病の子どもを在宅で養育中の家族に対する支援システム構築-新たに家族になった両親の語りからの示唆-。日本家族看護学会第17回学術集会, 名古屋, 9月。
- 2) 大矢智子 (前・千葉県こども病院), 濱中喜代, 日沼千尋 (東京女子医科大学), 児玉千代子 (東海大学), 荒川まりえ, 大木伸子 (前・東邦大学), 中村由美子 (青森県立保健大学), 及川香織。小児看護の現場で働き続けるための教育支援プログラムの開発-卒前研修受講2年目看護師の適応状況と変化-。日本小児看護学会第20回学術集会, 神戸, 6月。[日本小児看護学会第20回学術集会講演集]
- 3) 濱中喜代, 大木伸子 (前・東邦大学), 中村由美子 (青森県立保健大学), 及川香織, 日沼千尋 (東京女子医科大学), 大矢智子 (前・千葉県こども病院), 児玉千代子 (東海大学), 荒川まりえ。小児看護の現場で働き続けるための教育支援プログラムの開発-新人教育担当看護師の指導状況と認識-。日本小児看護学会第20回学術集会, 神戸, 6月。[日本小児看護学会第20回学術集会講演集]
- 4) 荒川まりえ, 濱中喜代, 及川郁子 (聖路加看護大学), 川口千鶴 (順天堂大学), 長谷川桂子 (岐阜県看護大学), 山本美佐子 (四日市看護医療大学), 朝野春美 (自治医科大学)。子どものヘルスプロモーション促進に向けた看護プログラムに関わった学生の学び。日本看護学教育学会第20回学術集会, 大阪, 7月。[日看教会誌 2010；20 (学術集会講演集)：191]

母性看護学

教授：茅島 江子 女性の健康と看護ケア
講師：細坂 泰子 周産期ケア, DOHaD, 母乳

教育・研究概要

女性のライフスタイル各時期における様々な健康問題について研究し, 母性看護における看護援助のあり方について考察した。

I. スウェーデンのユースクリニックでの助産師活動とわが国における思春期支援

2009年6月にスウェーデンのユースクリニックを現地調査した。ユースクリニックは, 思春期の性感染症や望まない妊娠を予防するために, 助産師とソーシャルワーカーが中心となって活動する公的な施設で, 助産師は性の健康教育, 性感染症検査, コンドーム配布, 緊急避妊薬の処方などを行っていた。ユースクリニックは220ヶ所以上設置されており, 助産師の業務範囲も広く, 若者の性の健康を守る最前線の役割を果たしていた。この結果は, 第29回日本思春期学会, 健やか親子21第1課題幹事会, (財)性の健康医学財団の講演会で報告し, わが国においても助産師を活用した同様の施設を設置し, 若者の性の健康を守るように提言した。

II. 妊産婦の性機能に関する研究の現状と動向

2009年度に, 看護におけるセクシュアリティに関する研究の動向を調査したが, 妊産婦のセクシュアリティに関する研究が少数であったことを踏まえ, 妊産婦の性機能に関して文献検討を行い, 妊産婦の性機能の特徴と性の健康支援のあり方について考察している。

III. 母乳中における細菌学的・免疫学的・栄養学的安全性の検討

搾母乳の保存方法および解凍方法による細菌学的・免疫学的安全性の検討を, 産後1ヶ月の成人褥婦20名を対象に得られた搾母乳および新生児用人工ミルク2検体を対象として行なった。母乳中における細菌は, 常温, 冷凍, 冷蔵の順に多く, 保存方法によって細菌数が減少することが明らかになった。免疫学的な検討はIgAおよびリパーゼを指標に分析を行い, リパーゼでは, どの解凍方法でも有意に値が減少していた。また栄養学的検討では, グルコー

ス、総蛋白、総脂質、総コレステロールの4指標にて分析を行い、総コレステロールでは、電子レンジおよび熱湯解凍で有意に値が減少することが示された。

Ⅳ. 妊婦・やせ妊婦の低出生体重児出産予防に向けた母体体重管理モデルの構築

新生児の出生時体重に影響を与える胎内環境、特に母親の非妊時、および妊娠期の体重増加を指標に大規模調査で明らかにすることを目的に、2010年1月より、全国27の産科施設において、調査を行っている。

Ⅴ. 大学教員の満足度と関連する要因の調査

母性看護学実習における大学教員の満足度とそれに関する要因について、全国の4年制大学の母性看護学教員を対象に、看護系大学教師の実習教育に対する教師効力尺度、職業性ストレス簡易調査票を用いた調査を行った。現在、詳細な分析中である。

〔点検・評価〕

スウェーデンのユースクリニックの調査から、性の健康を守るためには、思春期から身近な地域での性の健康教育や具体的な支援が必要であり、助産師の果たす役割が大きいことが明らかになった。今後は、2011年2～3月に先駆的な助産師活動や助産師教育を行っている英国の周産期施設と助産師養成大学を調査してきたので、その結果をまとめ、わが国における周産期の助産師活動および助産師教育のあり方について検討する。妊産婦の性機能については、妊娠中から育児期までの性機能の特徴を明らかにし、性の健康支援のあり方について考察する。母乳中における細菌学的・免疫学的・栄養学的安全性の検討では、母乳の保存方法および解凍方法による違いが明らかになった。今後はこれらの結果を臨床に反映できるよう、論文を通して普及につなげていく予定である。妊婦・やせ妊婦の低出生体重児出産予防に向けた母体体重管理モデルの構築研究、および大学教員の満足度と関連する要因の調査は、今後集計されたデータを詳細に分析していく予定である。

研究業績

Ⅰ. 原著論文

- 1) 細坂泰子, 抜田博子, 茅島江子. 青年期における月経随伴症状と心身の特性との関連. 思春期学 2010; 28(2): 227-38.

Ⅱ. 総説

- 1) 茅島江子. 身近な地域で性の健康を守る－スウェーデン・ユースクリニックの紹介－. 思春期学 2011; 29(1): 33-7.
- 2) 茅島江子. 講演1: 性の健康を守る－助産師の活動を通じて. 医療従事者・養護教諭のための若者と性教育・性の健康. 東京: 財団法人性の健康医学財団, 2011. p.5-12.

Ⅲ. 学会発表

- 1) 茅島江子. (シンポジウム1: これからの性教育を考える－性感染症や望まない妊娠から思春期の子どもを守るために) 身近な地域で性の健康を守る－スウェーデン・ユースクリニックの紹介－. 第29回日本思春期学会総会・学術集会. 小樽, 8月.

Ⅳ. その他

- 1) 瓜田久美子(聖隷浜松病院), 茅島江子. 助産師のキャリアパス・ラダーの検討活動報告. 平成22年度職能集会検討資料(日本看護協会)2010; 99-100.

地 域 看 護 学

教授：奥山 則子 地域看護学
 准教授：嶋澤 順子 地域看護学
 講師：高橋 郁子 地域看護学

教育・研究概要

地域看護学では、教員が各々に2つの研究テーマについて取り組んでいる。一つは、在宅精神障害者に対する行政保健師の援助方法に関する研究である。大学周辺地域の自治体の保健師の活動を中心に調査を進めている。大学と地域自治体との連携強化に及び実践活動の質の向上を目指している。もう一方は、地域における感染予防を研究テーマとし、現在は高齢者施設で働く介護職員の手指衛生に関する研究を主にしていく。

〔点検・評価〕

各研究については、整理した調査データを調査対象者にフィードバックし、さらに各学会でその成果を発表した。

新カリキュラムの進行に即して、講義内容を新しく設定した。また、平成23年度において3年次に実施する新しい実習の開始に向けて、実習内容と実習場所の開拓を進めている。

研 究 業 績

Ⅲ. 学会発表

- 1) 高橋郁子, 尾崎米厚¹⁾, 金田由紀子¹⁾, 鈴木康江¹⁾, 田原 文¹⁾, 岡本幹三¹⁾, 岸本拓治¹⁾(¹⁾鳥取大学). 高齢者施設で働く介護職員の感染症に対する認識. 第69回日本公衆衛生学会総会. 東京, 10月. [日公衛会抄集 2010: 69: 442]
- 2) 高橋郁子, 小野順子(福岡県立大学), 原口由紀子(鳥取大学). 高齢者施設の施設種別における感染対策の比較. 日本地域看護学会第13回学術集会. 札幌, 7月. [日本地域看護学会第13回学術集会講演集]
- 3) 嶋澤順子. 個人・地域の文化的側面に着目した在宅精神障害者の地域生活継続を促す保健師の援助. 文化看護学会第3回学術集会. 千葉(誌上開催), 3月. [文化看護学会第3回学術集会抄録集]
- 4) 嶋澤順子. 市町村精神保健福祉担当保健師による精神障害者地域生活支援の方法. 第69回日本公衆衛生学会総会. 東京, 10月. [日公衛会抄集 2010: 69: 424]

在 宅 看 護 学

教授：北 素子 在宅看護学
 講師：吉田 令子 在宅看護学
 講師：遠山 寛子 在宅看護学

教育・研究概要

在宅看護学では、教育研究として、学生が在宅看護学実習をより効果的に進めるためのモバイルラーニング活用に関する研究、在宅看護学における演習型授業の効果的なあり方に関する研究を実施するとともに、各教員の関心テーマに沿った研究を進めた。

Ⅰ. 在宅看護学実習におけるモバイルラーニング活用に関する研究

本学科における在宅看護学の臨地実習では、教員が常に学生の傍らで指導できないという特徴から、平成18年度からeラーニングを活用した実習を実施し効果をあげてきた。一方、実習施設内には学生が自己学習するための十分な資料・教材がなく、実習時間中に効果的な自己学習することができないという課題があった。そこで「いつでも、どこでも、だれでも」必要な情報を収集できるように各実習施設にモバイルパソコンを設置し、学生の疑問をリアルタイムで解決することを目指したモバイルラーニングを試行し、その有効性を検討した。

Ⅱ. 在宅看護学における効果的演習型授業の効果的なあり方に関する研究

在宅看護学の演習では、事例を用いたロールプレイングを実施し、学生の実践力強化を目指した授業展開を行ってきた。今回カリキュラム改正による在宅看護学の授業時間倍増に伴い、より効果的な演習型授業のあり方を検討するため、授業の構成、事例、学生の学習への取り組みについての授業評価を実施した。

Ⅲ. 看護師の薬剤処方権に関する訪問看護師及び在宅療養に携わる医師の意識と課題に関する研究

在宅療養における薬剤処方に関わる現状と看護師薬剤処方権付与についての訪問看護師と医師の考えを明確にするために、在宅療養医と訪問看護師へのヒアリングを実施し分析した。看護師の処方権付与は、看護師も医師も臨床経験と教育が必要であるが、利用者にとっても、医師にとっても利益があることが結果として明確になった。

IV. 要介護高齢者家族の生活安定度を評価するための指標開発

要介護高齢者家族に対する支援のアウトカムを評価する指標のひとつとして、在宅介護を継続している家族の生活安定度を測定する尺度（家族生活安定度尺度）の実践現場における家族支援への適用可能性について検証することを目的として研究を進めた。

V. 在宅で最期を看取る家族の予期悲嘆へのナラティブアプローチによる介入効果

在宅で最期を看取る家族の予期悲嘆に対してナラティブアプローチにより予期悲嘆がどのように変化をしていくのか介入効果を検討するために、余命6カ月以内と診断された療養者の家族へナラティブアプローチを実施し研究を進めた。

「点検・評価」

在宅看護学領域における臨地実習および演習型授業の評価研究から一定の成果を見出すとともに、解決すべき課題も明確になった。これらを元に、教育改善を行ってゆく予定である。また、学生の看護実践能力の育成を目指して、より効果的な教育方法を継続検討してゆく必要がある。

各教員が取り組んでいる訪問看護師の薬剤処方権に関する研究、要介護高齢者の家族支援のアウトカム評価に繋がる指標開発、在宅で最期を看取る家族の予期悲嘆への介入研究など、いずれも在宅看護学領域では重要なテーマであり、これらについても、領域内でサポートしあい、さらに発展的に取り組んでゆきたい。

研究業績

I. 原著論文

- 1) 遠山寛子, 島内 節 (広島文化学園大学). 在宅高齢者を看取った家族の悲嘆に対するケア内容の検討. 家族看研 2010 ; 15(3) : 18-29.

II. 総 説

- 1) 北 素子, 伊藤景一¹⁾, 野口真貴子¹⁾, 秋山美紀 (東京医療保健大学), 大金ひろみ¹⁾ (¹⁾東京女子医科大学). 臨床に活かすケーススタディ・リサーチ (第1回) 研究としてのケーススタディ. 看実践の科学 2011 ; 36(2) : 64-7.
- 2) 原三紀子 (東京女子医科大学), 宗村弥生 (青森県立保健大学), 北 素子. 看護領域におけるアロマセラピー研究の動向と課題. 看実践の科学 2010 ;

35(8) : 58-65.

- 3) 北 素子. 研究, 教育, 実践の統合へのビジョンを示す書. 看実践の科学 2010 ; 35(8) : 92-3.

III. 学会発表

- 1) 北 素子, 伊藤景一 (東京女子医科大学). 要介護高齢者家族への支援における「家族生活安定度尺度」適用可能性の検証 : 交差妥当性・併存妥当性の検討. 第30回日本看護科学学会学術集会. 札幌, 12月. [日看科学会講集 2010 ; 30回 : 363]
- 2) 北 素子, 谷津裕子 (日本赤十字看護大学). 質的研究における“numbers”に関わる諸問題の検討 : サンプルサイズ, データ分析, 結果の再表現. 第30回日本看護科学学会学術集会. 札幌, 12月. [日看科学会講集 2010 ; 30回 : 197]
- 3) 遠山寛子, 北 素子, 春日広美 (千葉大学大学院). 看護師の薬剤処方権に関する訪問看護師及び在宅療養に携わる医師の意識と課題. 第30回日本看護科学学会学術集会. 札幌, 12月. [日看科学会講集 2010 ; 30回 : 499]
- 4) 吉田令子, 北 素子. 運動教室修了者の6ヶ月後における運動継続者と中断者の運動への態度の比較. 第30回日本看護科学学会学術集会. 札幌, 12月. [日看科学会講集 2010 ; 30回 : 349]

IV. 著 書

- 1) 北 素子. 第5章 : 高齢者をとり巻く家族への看護. 川島みどり (日本赤十字看護大学) 監修. 老年看護学. 東京 : 看護の科学社, 2010. p.269-92.